

歳出の概要

民生費・衛生費 20.0%

福祉・保健・医療などに係る経費

38億859万円

【病院事業会計への繰出金の増などにより前年度比6千万円の増】

土木費 9.5%

道路・公園・港湾などの整備に係る経費

18億667万円

【港湾整備事業の減などにより前年度比2億5千万円の減】

教育費 2.8%

学校教育や、海のふるさと館、図書館など教育施設に係る経費

5億4,132万円

【海のふるさと館改修事業の減などにより前年度比5千万円の減】

公債費 43.2%

借金の償還などに係る経費

82億4,368万円

【借換の実施に伴う繰上げ償還などにより前年度比49億円の増】

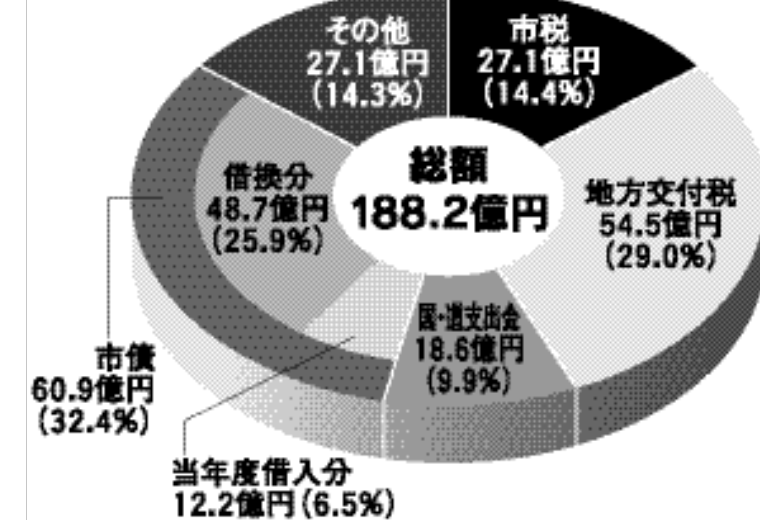
その他 24.5%

議会費・農林水産費・商工費・消防費・災害復旧費・職員給与費等

46億8,380万円

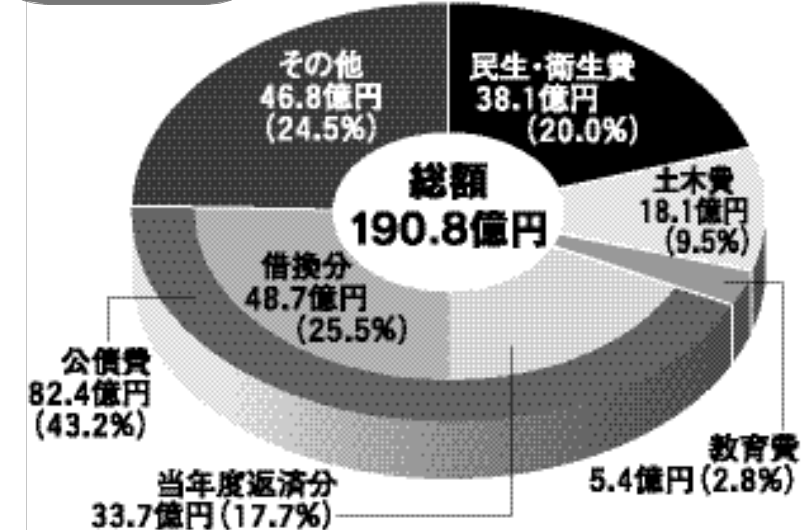
【退職手当の増などにより前年度比7千万円の増】

歳入



※借換分とは、借金残高261億円のうち低い利率に借換えた分です。

歳出



※借換分とは、借金残高261億円のうち低い利率に借換えた分です。

歳入の概要

市税 14.4%

市民税・固定資産税など

27億672万円

【主に法人市民税の減収が大きく影響し、前年度比4千万円の減】

地方交付税 29.0%

各自治体の財政力不足に応じて国から交付される交付税(臨時財政対策債を含む)

54億5,403万円

【前年度比1億2千万円の増】

国・道支出金 9.9%

国、道からの負担金・補助金・委託金

18億6,031万円

【港湾に係る補助金の減などにより前年度比7千万円の減】

市債 32.4%

借金

60億9,380万円

【借換債の発行により、前年度比45億円の増】

その他 14.3%

使用料・手数料、譲与金、諸収入等

27億903万円

【基金繰入金の減などにより前年度比1億2千万円の減】

お知らせします 平成17年度の決算

9月に開かれた定例市議会で、平成17年度の決算が認定されました。

決算は、昨年度の一年間に、どれだけの収入があり、それがどのように支出されたのかを分類して集計したものです。

ここでは、バランスシートによる分析を交え、平成17年度決算のあらましについて、お知らせします。

一般会計決算額

■歳入決算総額
188億2,389万円
(前年度比30.5%増)

■歳出決算総額
190億8,406万円
(前年度比33.0%増)

歳入と歳出の差引は、
▲2億6,017万円の赤字決算
となっています。

市

では、市民の皆さんに市の財政状況を知ってもらい、市政に対する理解を深めていただくため、財政状況を公表しています。
決算は、会計年度(4月から3月まで)の1年間に、市がどのような仕事にいくらかのお金を使い、いくらか余ったのか、またはいくらか足りなかったのかを明らかにするものです。

平成17年度の一般会計(市の行政運営の基本的な経費を賄う会計)の決算額は次のとおりです。

平成17年度一般会計～決算～

行

政は、皆さんが納めた税金や地方交付税、市債や国・道の支出金などで運営しています。

平成17年度は、市税の減少に加え、借金の返済もピークを迎えたことから、職員給与の削減をはじめ、さまざまな経費の削減を図りましたが、昭和57年度以来23年ぶりの赤字決算となりました。この危機的な状況を乗り切るため、平成17年度に策定した財政再建計画に基づき財政の建て直しを図っています。

平成17年度決算から見たポイント

赤字の原因

- ① 借金返済(懸案だった「はーとふる」や「ふるも」の建設・ごみ処理施設や学校などの更新時期が重なり、その借金返済が現在ピークを迎えています。)
- ② 退職職員数の増加(退職手当の増加)
- ③ 景気低迷による市税の減少(昭和59年の水準)
- ④ 地方交付税の大幅な削減(平成16年度には国の三位一体改革により約5.6億円の削減)
- ⑤ 生活保護など扶助費の増加

公債費の平準化

赤字を解消する計画を策定するため、赤字の大きな原因である借金の返済計画を見直すことにし、低利率のものへの借換えと返済期間の延長により、公債費の平準化を図ることにしました。

再建計画の策定

平成17年11月に策定した「留萌市財政再建計画(平成26年度まで)」に基づき、職員数や給与の削減、受益者負担(ごみ手数料など)の適正化などの再建策を進めていくこととなります。

改めて市民の皆さんのご理解・協力をお願いします。

詳しくは12月1日公表の財政事情説明書で解説しています。留萌市ホームページまたは市役所1階市政情報コーナーでご覧ください。
市・財政課 ☎42・1813

平成17年度 特別会計 ～決算～

■国民健康保険事業

国保税収納率が低い状況が続く一方、被保険者の増加、医療費や介護納付金の増加により平成11年度から赤字決算が続いています。

■下水道事業

一般会計が赤字決算となり、下水道の赤字分を補てんすることができなくなったこともあり平成14年度から赤字決算が続いています。現在、平成17年度に策定した下水道事業経営健全化計画に基づく収支改善を図っています。

(単位：万円)			
区 分	歳 入	歳 出	差 引
国民健康保険事業	21億7,452	24億9,210	△3億1,758
老人保健事業	30億85	29億8,971	1,114
介護保険事業	14億5,234	14億3,529	1,705
港湾事業	3億8,355	3億8,355	0
下水道事業	17億4,928	20億4,088	△2億9,160
神居岩スキー場事業	1,501	1,501	0
合 計	87億7,555	93億5,654	△5億8,099



留萌消防組合財政事情説明の作成及び公表に関する条例第2条の規定に基づき、平成18年度留萌消防組合財政事情説明書を公表します。

平成18年12月1日
留萌消防組合管理者 高橋 定敏

より地域の皆様の期待に応えてまいります。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

今年度、訓練塔の建替工事を行いました。この訓練塔を活用し、火災や救急救助活動などの実災害を想定し、日々の訓練に励んでおり、9月3日（日）に行われた留萌市民防災訓練時には想定訓練を実施しました。

また、医療資格を持たない一般住民がAEDという機器を用いて除細動（心筋梗塞等により心臓が停止している患者に対して電気ショックを与えること）を行うことが認められたことから、当組合においても広く住民に対しAEDの講習を実施しております。

留萌消防組合においても厳しい財政状況にありますが、現在の複雑・多様化する災害や増加の一途をたどる救急活動に対応するべく財政運営の創意・工夫に

留萌消防組合の財政事情

平成18年度留萌消防組合財政事情説明書

平成17年度 一般会計決算状況

▼ 歳入歳出決算額

■ 歳 入 (単位：円、%)				■ 歳 出 (単位：円、%)			
科 目	決 算 額	構 成 比		科 目	決 算 額	構 成 比	
分担金及び負担金	579,502,000	97.7		議 会 費	485,525	0.1	
使用料及び手数料	1,578,650	0.2		総 務 費	46,754,042	8.0	
諸 収 入	1,658,715	0.3		消 防 費	528,836,641	90.1	
繰 越 金	10,554,354	1.8		留 萌 消 防 署 費	365,265,539	62.3	
計	593,293,719	100.0		支 署 費	163,571,102	27.8	
				公 債 費	10,643,651	1.8	
				計	586,719,859	100.0	

平成18年度へ繰越 6,573,860円

平成18年度 一般会計予算及び執行状況

▼ 予算執行状況 (平成18年9月30日現在)

■ 歳 入					■ 歳 出				
(単位：千円、%)					(単位：千円、%)				
科 目	予 算 額	構 成 比	執 行 額	執 行 率	科 目	予 算 額	構 成 比	執 行 額	執 行 率
分担金及び負担金	577,104	99.9	294,700	51.1	議 会 費	384	0.1	139	36.2
使用料及び手数料	700	0.1	647	92.4	総 務 費	46,698	8.1	23,213	49.7
諸 収 入	0	0.0	372		消 防 費	523,320	90.6	251,264	48.0
繰 越 金	0	0.0	6,574		留萌消防署費	358,084	62.0	174,554	48.7
計	577,804	100.0	302,293	52.3	支 署 費	165,236	28.6	76,710	46.4
					公 債 費	6,102	1.0	0	0.0
					予 備 費	1,300	0.2		
					計	577,804	100.0	274,616	47.5

▼ 住民の負担状況

分 担 金 ・ 負 担 金	留 萌 市	小 平 町	平成18年9月30日現在の人口
577,104,000円	400,610,000円	176,494,000円	留萌市 26,876 人
住 民 一 人 当 た り	14,906円	42,922円	小平町 4,112 人

▼ 消防組合債の状況

元 金	利 子	合 計	留萌市	小平町
5,570,000円	530,722円	6,100,722円	5,495,502 円	605,220 円

資 産 合 計

450億6,064万円

【市民1人あたり167万円】

有形固定資産 403億4,796万円

学校、市営住宅などの建物や道路など

【市民1人あたり149万円】

投 資 等 42億2,515万円

団体への出資金や融資、基金や定期預金など

【市民1人あたり16万円】

流 動 資 産 4億8,753万円

現金やすぐに現金化できる普通預金、税金などの未収金

【市民1人あたり2万円】

負債・正味資産合計

450億6,064万円

【市民1人あたり167万円】

負 債 282億6,093万円

借金や将来支払う退職金、赤字補てんなどで「これから負担する額」

【市民1人あたり105万円】

正味資産 167億9,971万円

支払済みのお金（国や道からの交付金や税金など）で「今まで負担した額」

【市民1人あたり62万円】

平成17年度 バランスシート ～普通会計～

バランスシートとは、

留萌市が今まで進めてきた「まちづくり」で

どんな資産をつくったのか、

そのためにどんなお金を使ったのかということが

わかる資料です。

バランスシートは、

歳入歳出決算と異なり、長期的な市の資産形成状況を

把握することができます。

市民1人あたりの バランスシート

(H18年3月末 人口 27,057人)

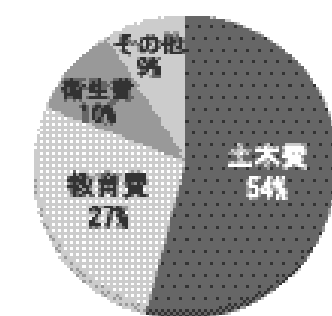
資 産 167万円

負 債 105万円

正味資産 62万円

バランスシートから見えるもの 資 産

有形固定資産は、道路・港湾・住宅などの土木費（219億円）、学校や温水プールなどの教育費（107億円）、ごみ処理場やは一とふるなどの衛生費（39億円）の順となり、この3分野でほとんどを占めています。



(主な有形固定資産)

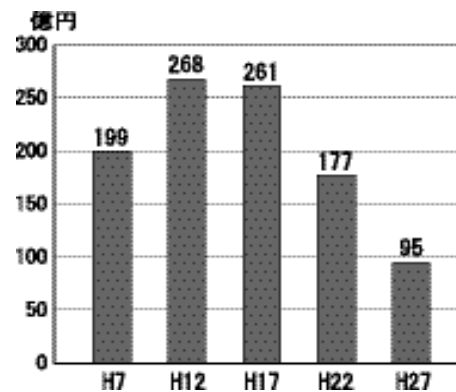
分野	資産価値	割合
市営住宅	83億円	20%
小中学校	70億円	17%
公園	32億円	8%
道路	30億円	7%
ごみ処理場	29億円	7%
港湾	25億円	6%

負 債

バランスシートから見えるもの

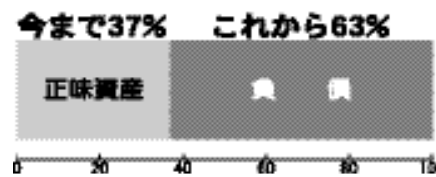
負 担

負債の9割は借金です。一般会計の借金残高は261億円（H17末）で市民1人当たりでは96万円になります。しかし、支払いを国から支援されるものも多く、実際の負担額はもっと少なくなります。留萌市の借金が多いことは事実ですが、それに対して資産も多いといえます。現在は公共事業を抑制し新たな借金を減らしており、借金残高は毎年減少しています。



※H18以降は財政再建計画の発行額で試算しています。

現在の資産は、今までに4割の支払いが完了しています。今後は借金の返済が進み、公共事業を抑制していることから、「これから負担する」割合は減少していくことになります。



※バランスシートに使用している「普通会計」とは、総務省の定める会計区分の一つで、一般会計、特別会計など各会計で経理する事業の範囲が自治体ごとに異なっているため、統一的な基準で整理して比較できるようにした統計上の会計区分のことで